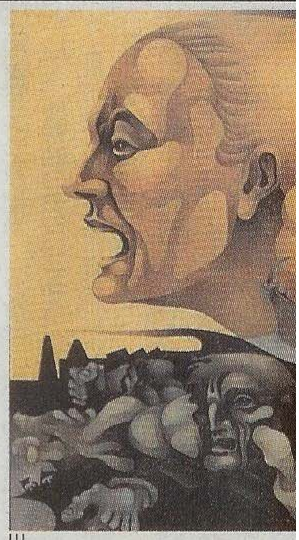
文　化

ユダヤの旋律 日本と共鳴

◇「セファルディ」の受け継がれた魂を歌い伝える◇

岡庭矢宵



堅固なスタイルで人物を描いた。「革命を生きている」エビータが女性に投票権を与える法令の成立を告げる演説の場面だろうか。（1997年、カルパニ財団蔵）

私は13年前からヨーロッパ中世の古楽を歌ってきた。その過程で「セファルディ」と呼ばれるユダヤ民族と、その音楽に出合った。セファルディ音楽の旋律は日本人の私にもどこか懐かしいにおいがする。

〈五月に薔薇の花が咲く　けれど私の心は　愛の痛みでうずいている〉

昨年10月、私はレバノンとの国境にあるイスラエルの都市ナハリヤで、代表的なセファルディの曲「花咲ける薔薇」を歌った。地中海沿岸の美しい街で、イタリア・カプリ島の有名な「青の洞窟」に似た「ローシュ・ハニクラ」が観光名所として知られる。そこで私は一組の親子と出会い、2人のために口ずさんだ。

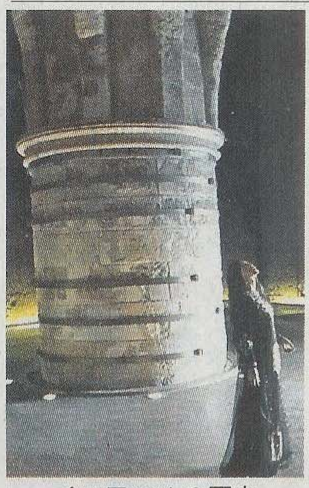
♪　♪　♪

中世はイベリア半島で

19歳のイスラエル兵士フェリペ君と、彼の母親。2人ともアルゼンチンに住んでいたが、息子はイスラエルで兵役に就いた。お母さんはアルゼンチンから息子を訪ね、久しぶりの親子水入らずの時間を過ごしていた。

私が、ヘブライ語とスペイン語が交じったラディノ語で「花咲ける薔薇」を歌うと、お母さんは涙を流しながら聴いてくれた。「アルゼンチンからはるばるイスラエルまでやってきて、こんな懐かしい歌に出合うなんて！」

セファルディとは中世、イベリア半島に住んでいたが、1492年のレコンキスタ（キリスト教徒による国土再征服運動）によって、北アフリカや中東、オランダ、英国などに移り住んだユダヤ人の子孫を指す。彼らはイベリア半島ではぐくんだ歌を移住先でも歌い続けた。その歌はバルカン半島やギリシャなど広い地域で伝承されている。



イスラエルの歴史的建築で歌う筆者

セファルディの歌はラディノ語で歌われ、ヨーロッパの民謡や叙情歌、ユダヤの寓話などから題材をとっている。中世スペインの影響が濃いが、中東音楽に近い面があり、日本のこぶしを思わせる歌い回しも出てくる。

昨年、日本からエルサレム近郊に出向き、イエメン系のユダヤ人歌手、ギーラ・ベシャリさんに歌を教えてもらう機会があった。2日間、セファルディの歌い回しなどを教えてもらった。私が輸入盤のCDなどで聴いてコピーしていたセファルディの歌を何曲か歌ってみせると、「あなたらしい解釈ね」といってほめてくれた。

♪　♪　♪

埋もれた曲も多く

もっとも、現代のイスラエルでは、誰でもセファルディを口ずさむというわけではない。かつて、イサーク・レヴィというアーティストがヨーロッパ各地を回って、セファルディを収集し、譜面にまとめた。数百曲にものぼる譜面は全3巻の本になって出版されたが、今ではイスラエルでも入手が困難だという。埋もれてしまっている曲が少なくない。

私は国立音大卒業後、古楽やアラブ音楽などを学び、古楽のアンサンブルに参加したり、海外の音楽祭に出演したりしてきた。たまたま聴いた古楽の歌手のCDにセファルディが収録されていたのが、この音楽に取り組むきっかけだった。

2010年、東京・浅草で初めてセファルディを歌う公演を開いた。それ以来、何度か公演したが、お客さんも私と同じように「初めて聴くのに懐かしさを感じる」と言ってくれる。昨年4月に東京・両国で開いた公演では、以前から学んでいた即興ダンスとセファルディの歌を融合させ、イスラエルには無い独自のスタイルを追求している。

♪　♪　♪

国交60周年に現地公演

先月、セファルディを歌ったCDアルバム「セファルディ・ユダヤ―魂の紡ぐ歌―」を出した。パーカッション奏者の海沼正利さんがアラブの琴、カーヌーンで伴奏してくれた。セファルディを集めたアルバムは日本人では初めてではないだろうか。ユダヤ音楽研究者の水野信男さんから貴重な資料を提供していただいた。水野さんがテルアビブの古書店で入手したレヴィの譜面集を見せてもらい、歌詞などを確かめることができた。

昨年、イスラエルに出向いた時に知り合った演出家、モニ・ヨセフさんの尽力で、今年秋にはイスラエルでコンサートツアーを開く予定だ。偶然だが、今年は日本とイスラエルが国交を結んで60周年の節目に当たる。両国の親交に役立てれば、うれしい。それに先立ち、5月23日には東京・恵比寿で公演する。

セファルディには故郷を追われても、希望を失わずに力強く生きたユダヤの民衆の魂が受け継がれている。東日本大震災で傷付いた日本の人たちに、彼らの歌に込められた希望を伝えていきたいと考えている。（おかにわ・やよい＝歌手）

交遊抄

昨年12月、渋谷のライブハウスで我々のロックバンド「NOCOBA」のライブを開いた。活動歴は15年ほどで、バンドマスターは情報企画専務の浦西正善さん。演奏経験のなかった私が40歳を超えてベースを始めるきっ

彼は、自作自演でレコードを出したこともあるミュージシャン。一方、私も5000枚以上のレコードやCDを持つ大の音楽好き。お互い元の会社は離れたが交流は続いた。15年ほど前に、ギターやキーボードが上手な会社の後輩を浦西さんに引き合わせ「バンドを組んで

間